

平成 2 0 年 度 事 業 計 画 書

法人の名称 特定非営利活動法人 エンドレス・サマー

1 事業活動方針

設立当初の事業年度は、以下の事業を確実に実施することを目標とする。

(1) 特定非営利活動に係る事業

- ①子どものための定期的学習支援事業
- ②子どもと親のための自然体験・環境教育事業
- ③子どもと親のための音楽・芸術体験事業
- ④子どもと親のための食の体験学習事業
- ⑤子どもと親のための動物ふれあい体験事業
- ⑥子どもと親のためのスポーツ促進事業
- ⑦子どもと親のための国際交流促進事業
- ⑧障害者・高齢者の社会参加促進事業
- ⑨前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言、又は援助事業

(2) その他の事業

- ①物品販売事業
- ②広告事業
- ③コンサルティング事業

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 子どものための定期的学習支援事業

ア 放課後学習支援事業

- ・内 容 学校で学習した内容の復習を主とし、放課後に学習支援を行う。
習得レベルにより個人の能力にきめこまやかな対応を目指す。
地域の上級生による合同指導も積極的に行っていく。
- ・日 時 毎週 月、火、木 放課後
- ・場 所 川和保育園 集会室等
- ・従事者人員 各回5名程度 年間延べ数 約720名
- ・対 象 者 横浜市在住の小学生、中学生
- ・支出見込額 600,000円

②子どもと親のための自然体験・環境教育事業

ア 自然体験教育事業

- ・内 容 特定非営利法人鶴見川流域ネットワーク主催の生き物調査・観察、清掃活動に参加するほか鶴見川流域の自然環境に触れ合う
その他地域の自然を親子で体験する
- ・日 時 隔月1回
- ・場 所 鶴見川流域ほか
- ・従事者人員 各回10名 年間延べ約60名
- ・対 象 者 神奈川県在住の市民 不特定多数

・支出見込額 120,000円

③ 子どもと親のための音楽・芸術体験に関する事業

ア 子どもと親のための音楽実体験事業

- ・内 容 プロの音楽家のミニコンサート等をひらきじかに楽器の音を体感する
実際に楽器に触れて親子で楽しむ機会を設ける
- ・日 時 隔月1回
- ・場 所 川和保育園、公会堂等
- ・従事者人員 各回20人程 年間延べ120名
- ・対 象 者 神奈川県在住の市民 不特定多数
- ・支出見込額 300,000円

イ 子どもと親のための芸術実体験事業

- ・内 容 プロの写真家と一緒に野外に撮影に行き、その作品を発表し合う。
芸術家と作品作りを親子で行う。
- ・日 時 隔月1回
- ・場 所 野外撮影等場所は市内公園等。
- ・従事者人員 各回20人程度 年間延べ120名
- ・対 象 者 神奈川県在住の市民 不特定多数
- ・支出見込額 300,000円

④ 子どもと親のための食の体験学習事業

- ・内 容 子どもと親で食について体験学習する。食物の生産現場に出向き、体験学習を通して食の重要性について学ぶ。又、本職の料理人から直接料理を学び体験する機会を設ける。
- ・日 時 隔月1回
- ・場 所 食物の生産現場他
- ・従事者人員 各回20名 年間延べ約120名
- ・対 象 者 神奈川県在住の市民 不特定多数
- ・支出見込額 120,000円

⑤ 子どもと親のための動物ふれあい体験事業

- ・内 容 子どもと親で動物とのふれあいを体験する。盲導犬施設等にも訪れ、動物と人間の関係、いのちの大切さを学ぶ。
- ・日 時 月1回
- ・場 所 盲導犬施設他
- ・従事者人員 各回20名 年間延べ約240名
- ・対 象 者 神奈川県在住の市民 不特定多数
- ・支出見込額 110,000円

⑥子どもと親のためのスポーツ促進事業

ア 子どもと親のためのマリンスポーツ体験促進事業

- ・内 容 普段体験する機会が少ないマリンスポーツを（サーフィン他）専門家の指導のもと定期的に行う。（プロサーファー・ライフガードらによる指導で安全には万全を期す）
- ・日 時 毎月1回（冬期は休止する場合あり）
- ・場 所 神奈川県、千葉県他気象条件による
- ・従事者人員 各回10名 年間延べ約120名
- ・対 象 者 神奈川県在住の市民 不特定多数
- ・支出見込額 110,000円

イ 子どもと親のための武道等促進事業

- ・内 容 普段体験する機会が少ない武道（柔道他）を専門家の指導のもと定期的に行う。日本古来の伝統も合わせて学ぶ。
- ・日 時 毎月1回
- ・場 所 中学校講堂他
- ・従事者人員 各回10名 年間延べ約120名
- ・対 象 者 神奈川県在住の市民 不特定多数
- ・支出見込額 110,000円

⑦子どもと親のための国際交流促進事業

- ・内 容 子どもと親で地域のみならず国際交流も実施する。地域同士の交流を日本以外にも広げていく。
- ・日 時 毎月1回
- ・場 所 事務局他
- ・従事者人員 各回20名 年間延べ約240名
- ・対 象 者 神奈川県在住の市民 不特定多数
- ・支出見込額 220,000円

⑧障害者・高齢者の社会参加促進事業

- ・内 容 上記活動に障害者・高齢者が参加できるように人的サポートシステムの構築。ボランティア募集及び教育現場に働きかけをし、ネットワーク作りを進める。
- ・日 時 毎月1回
- ・場 所 事務局他
- ・従事者人員 各回10名 年間延べ約120名
- ・対 象 者 神奈川県在住の市民 不特定多数
- ・支出見込額 120,000円

⑨前各号に掲げる活動を行う団体及び個人活動に関する連絡、助言、又は援助事業

- ・内 容 前各号に掲げる活動を積極的に社会的に広めるための各団体及び個人に対し専門家によるコンサルティングを行う。
- ・日 時 毎月1回
- ・場 所 事務局他
- ・従事者人員 各回10名 年間延べ約120名
- ・対 象 者 神奈川県在住の市民 不特定多数
- ・支出見込額 110,000円

(2) その他の事業

① 物品販売事業

- ・内 容 各特定非営利活動に係る事業の実施の際に、Tシャツ、ストラップ、ステッカー等を作成し販売する。当法人オリジナル商品の販売等
- ・日 時 通年
- ・場 所 事務局
- ・従事者人員 10名 年間延べ約120名
- ・対 象 者 不特定多数
- ・支出見込額 200,000円（作成原価）

② 広告事業

- ・内 容 各特定非営利活動に係る事業の趣旨に賛同する企業のアピールを積極的に行う。ラッピング・カー等で広告を行う。
- ・日 時 通年
- ・場 所 事務局等各活動場所
- ・従事者人員 2名 年間延べ約24名
- ・対 象 者 不特定多数
- ・支出見込額 100,000円

③ コンサルティング事業

- ・内 容 各特定非営利活動に係る事業の趣旨に賛同する企業の社会参加に際するコンサルティング業務を行う。
- ・日 時 通年
- ・場 所 事務局等各活動場所
- ・従事者人員 10名 年間延べ約120名
- ・対 象 者 不特定多数
- ・支出見込額 100,000円

特定非営利活動法人 エンドレス・サマー 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人 エンドレス・サマー という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を神奈川県横浜市都筑区川和町665番地に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、地域社会における子ども・高齢者・障害者等社会的弱者とその家族の支援に関する事業を行い、誰もが安心して暮らせる活気ある街づくりに寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。う。

- ①社会教育の促進を図る活動
- ②学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- ③環境の保全を図る活動
- ④国際協力の活動
- ⑤子どもの健全育成を図る活動
- ⑥前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) 特定非営利活動に係る事業

- ①子どものための定期的学習支援事業
- ②子どもと親のための自然体験・環境教育事業
- ③子どもと親のための音楽・芸術体験事業
- ④子どもと親のための食の学習体験事業
- ⑤子どもと親のためのスポーツ促進事業
- ⑥子どもと親のための国際交流促進事業
- ⑦障害者・高齢者の社会参加促進事業
- ⑧前各号に掲げる活動を行う団体及び個人活動に関する連絡、助言、又は援助事業

(2) その他の事業

- ①物品販売事業
- ②広告事業
- ④コンサルティング事業

2 前項第2号に掲げる事業は、同項第1号に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、収益を生じたときは同項第1号に掲げる事業に充てるものとする。

第3章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法(以下「法」という。)上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し、活動を支援するために入会した個人及び団体

(入会)

第7条 会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申込むものとし、理事長は、そのものが前条に掲げる条件に適合すると認めるときは、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

2 理事長は、前項のものの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して1年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会において正会員総数の3分の2以上の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款等に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

(抛出金品の不返還)

第12条 既納の入会金、会費及びその他の抛出金品は、返還しない。

第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上6人以下
- (2) 監事 1人以上2人以下

2 理事のうち、1人を理事長、若干名を副理事長とする。

(選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において選任する。

2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。

3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を執行する。
- 3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 4 監事は、次に掲げる職務を行う。
 - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
 - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
 - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
 - (4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。
 - (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第16条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠のため、又は増員によって就任した役員任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
- 3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会において正会員総数の3分の2以上の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

第20条 この法人に、事務局長その他の職員を置くことができる。

- 2 職員は、理事長が任免する。

第5章 総会

(種別)

第21条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第22条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第23条 総会は、次の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散

- (3) 合併
- (4) 事業計画及び収支予算に関する事項
- (5) 事業報告及び収支決算に関する事項
- (6) 役員を選任等に関する事項
- (7) 入会金、会費に関する事項
- (8) 長期借入金に関する事項
- (9) 事務局の組織等に関する事項
- (10) その他この法人の運営に関する重要事項

(開催)

第24条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第4項第4号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

第25条 総会は、前条第2項第3号の場合を除き、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第26条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第27条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第28条 総会における議決事項は、第25条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第29条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、第27条、前条第2項、次条第1項及び第50条第1項の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 正会員総数及び出席者数(書面表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。)
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名又は記名押印しなければならない。

第6章 理事会

(構成)

第31条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第32条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第33条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の3分の2以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第4項第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第34条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に理事会を招集しなければならない。

3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第35条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(定足数)

第36条 理事会は、理事総数の過半数の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第37条 理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第38条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。

3 前項の規定により表決した理事は、第36条及び次条第1項の適用については、理事会に出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第39条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名(書面表決者にあつては、その旨を付記すること。)
- (3) 審議事項

- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名又は記名押印しなければならない。

第7章 資産及び会計

(資産の構成)

第40条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収入
- (5) 事業に伴う収入
- (6) その他の収入

(資産の区分)

第41条 この法人の資産は、これを分けて特定非営利活動に係る事業に関する資産及びその他の事業に関する資産の2種とする。

(資産の管理)

第42条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(会計の原則)

第43条 この法人の会計は、次に掲げる原則に従って行うものとする。

- (1) 会計簿は、正規の簿記の原則に従って正しく記帳すること。
- (2) 財産目録、貸借対照表及び収支計算書は、会計簿に基づいて収支及び財政状態に関する真実な内容を明りょうに表示したものとすること。
- (3) 採用する会計処理の基準及び手続については、毎事業年度継続して適用し、みだりにこれを変更しないこと。

(会計の区分)

第44条 この法人の会計は、これを分けて特定非営利活動に係る事業に関する会計及びその他の事業に関する会計の2種とする。

(事業計画及び収支予算)

第45条 この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第46条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収入支出することができる。

2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(事業報告及び収支決算)

第47条 この法人の事業報告及び収支決算は、毎事業年度ごとに理事長が事業報告書、収支計算書、貸借対照表及び財産目録等として作成し、監事の監査を経て、その年度終了後2か月以内に総会の承認を得なければならない。

(事業年度)

第48条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(長期借入金)

第49条 この法人が資金の借入をしようとするときは、その事業年度の収入をもって償還する短期借入金を除き、総会の承認を得なければならない。

第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第50条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の議決を得なければならない。

2 定款の変更は、次に掲げる事項を除いて所轄庁の認証を得なければならない。

- (1) 主たる事務所の所在地及びその他の事務所の所在地(所轄庁の変更を伴わないものに限る。)
- (2) 資産に関する事項
- (3) 公告の方法

(解散)

第51条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続開始の決定
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第52条 この法人が解散(合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。)したときに残存する財産は、社会福祉法人共に生きる会に帰属するものとする。

(合併)

第53条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第54条 この法人の解散事由に係る公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。

第10章 雑則

(細則)

第55条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附 則

1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。

2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

理事長	寺田 信
理事長	菊地 大紀
理事	佐々木 朝子
監事	島村 慎之介

3 この法人の設立当初の役員の任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、成立の日から平成21年5月31日までとする。

- 4 この法人の設立当初の事業計画及び収支予算は、第45条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。
- 5 この法人の設立当初の事業年度は、第48条の規定にかかわらず、成立の日から平成21年3月31日までとする。
- 6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

(1) 入会金

正会員	個人	1,000円	団体	10,000円
賛助会員	個人	500円	団体	5,000円

(2) 年会費

正会員	個人	1,000円	団体	10,000円
賛助会員	個人	1口 500円	(1口以上)	
	団体	1口 5,000円	(1口以上)	